レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式３

ﾚﾋﾞｭｰ項目（事業名）	兵庫の防災教育の推進（学校安全総合支援事業）			部（局）	教育委員会事務局
				所管課	教育企画課
				担当班	教育企画班
				連絡先	078-362-3214
開始年度	平成24年度	終了年度	－	関連計画等	第４期ひょうご教育創造プラン
事業区分	☑ 国補助事業　□ 県単独事業				
実施方法	☑ 直執行　□ 委託　□ 補助　□ その他（　　）			実施主体等	兵庫県教育委員会
事業目的	阪神・淡路大震災から四半世紀が経過する中で、震災の記憶が風化することを防ぐとともに、その経験と教訓をいかし、南海トラフ巨大地震や多発する自然災害に備えるため、主体的に判断して実践する力、助け合いやボランティア精神等共生の心を育成する「兵庫の防災教育」の推進を図る。				
事業概要	(1) 高等学校等防災ジュニアリーダー育成 (2) 学校防災体制・防災教育の充実と展開 (3) 気象災害に対する防災教育の充実と展開 (4) 防災教育に関する取組の県内周知 (5) 震災・学校支援チーム（EARTH）に関する教職員の育成				
業務フロー	文部科学省と委託契約(5月)→事業実施→事業報告(3月) (1)学習会(7月)→被災地ボランティア(8月)→活動報告会(11月) (2)アドバイザー派遣(6月～)→活動報告(2月) (3)講演会・専門家派遣(6月～)→活動報告(2月) (4)実践事例集の作成･発行(2月) (5)養成講座の実施(6･8･11月)→全体訓練研修会(7月)→地区別訓練研修会(9月)				
R5レビュー時の外部委員会意見	・生徒らに震災の爪痕の残っている現場を見せるなど、生徒への防災に対する内発的な動機づけが重要である。 そういった動機付けの研修や取組を何回したか等をアウトプット指標にしてはどうか。 ・高校卒業後も地域で防災の担い手となって活動してもらえるよう防災リーダー制度との連携を図られたい。 ・防災ジュニアリーダーになった人数をアウトカム指標にしてもいいのではないか。 ・地域ごとに想定される災害は違うので、取組の整理・分類をして必要な地域に展開されたい。				
改善結果（改善状況 取組過程）	・高等学校等防災ジュニアリーダー学習会にて、各地域や学校ごとの課題を踏まえ生徒らがアクションプランを作成することにより、内発的動機付けを促している。 ・上記研修実施回数を指標に追加した。 ・震災・学校支援チームの地区別研修において、各地区の特性に応じた防災教育を実施した。				

事業に要するコスト

区分			５年度決算額	６年度決算額	７年度当初予算額	８年度当初予算額
事業費①			10,233 千円	6,509 千円	15,437 千円	15,002 千円
経費内訳	報酬・賃金					
	委託料					
	補助金・交付金					
	貸付金					
	その他		10,233 千円	6,509 千円	15,437 千円	15,002 千円
（財源内訳）	(国庫)		(10,233千円)	(6,509千円)	(15,437千円)	(15,002千円)
	(特定)					
	(起債)					
	(一般財源)					
予算額② ※精算補正前の予算を記載			14,386 千円	15,000 千円	15,437 千円	15,002 千円
執行率((①/②)×100)			71.1%	43.4%	100.0%	100.0%
人件費③（a＋b＋c）			従事人員 0.8人	従事人員 0.8人	従事人員 0.8人	従事人員 0.8人
			6,600 千円	6,895 千円	7,197 千円	7,550 千円
	職員給与費	a	5,725 千円	5,911 千円	6,322 千円	6,566 千円
	賞与引当金繰入額	b	475 千円	499 千円	475 千円	499 千円
	退職手当引当金繰入額	c	400 千円	485 千円	400 千円	485 千円
総コスト(①＋③)			16,833 千円	13,404 千円	22,634 千円	22,552 千円

レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式３

評価	指標名	区　分	５年度実績	６年度実績	７年度見込	８年度目標	最終目標【年度】
指標	成果指標（アウトカム指標①） 「兵庫の防災教育」の推進を図るため、県内公立学校の授業内での防災教育の実施率	目　標	93	94	95	96	98【10年度】
		実績（見込）	91.8	94.0	(94.7)		
		(単位当たりコスト)	(183 千円)	(143 千円)	(239 千円)	--	
		達成率（見込）	98.7%	100.0%	(99.7%)	(0.0%)	
	成果指標（アウトカム指標②） 防災ジュニアリーダーになった人数	目　標	150	150	150	150	150【毎年度】
		実績（見込）	222	230	(194)		
		(単位当たりコスト)	(76 千円)	(58 千円)	(117 千円)	--	
		達成率（見込）	148.0%	153.3%	(129.3%)	(0.0%)	
	成果指標（アウトカム指標③）	目　標					
		実績（見込）					
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率（見込）	--	--	--	--	
	活動指標（アウトプット指標①） 地域や関係機関と連携して防災（避難）訓練を実施した学校の割合（小・中・高・特）	目　標	ー	85	88	92	100【10年度】
		実績（見込）	81.8	82.5	(81.9)		
		(単位当たりコスト)	(206 千円)	(162 千円)	(276 千円)	--	
		達成率（見込）	--	97.1%	(93.1%)	(0.0%)	
	活動指標（アウトプット指標②） 生徒が主体的に防災について考える学習会の開催回数	目　標	5	5	5	5	5【毎年度】
		実績（見込）	5	5	(5)	(5)	
		(単位当たりコスト)	(3,367 千円)	(2,681 千円)	(4,527 千円)	(4,510 千円)	
		達成率（見込）	100.0%	100.0%	(100.0%)	(100.0%)	
	活動指標（アウトプット指標③）	目　標					
		実績（見込）					【年度】
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率（見込）	--	--	--	--	
	終期設定	有（　　）・無					
	改善基準						

自己評価	評価の視点	評価	目標に対する達成状況（総合的評価）
	○有効性（評価指標に対する実績） ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか　など	学校での防災教育授業等に対し、アドバイザーによる指導・助言や、防災ジュニアリーダーの被災地支援活動等を実施するとともに、事例の周知の取組を展開している。これらの取組を通じ、防災教育の実践力向上と取組の普及が進み、兵庫の防災教育の充実に寄与している。	B：ほぼ満足のいく実施状況 学校安全総合支援事業を実施することにより、県内公立学校の授業内での防災教育の実施率は増加している。 令和6年能登半島地震の発生を契機として、防災ジュニアリーダーの人数や地域・関係機関と連携した防災訓練の実施校割合の増加がみられるなど、防災意識の高まりがうかがえた。しかし、その後は減少しており、防災意識を一過性のものとせず、取組の継続性に課題が見られる。 平時から継続的に防災教育に取り組むことが重要であることから、本事業を引き続き実施し、兵庫における防災教育の一層の充実を図る必要がある。
	○効率性（最小のコストで最大の効果） ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか　など	文部科学省委託事業「学校安全総合支援事業」を活用し、効率的に実施している。	

課題・今後の方向性

☑ 改善　□ 他事業と統合　□ その他

説明：平時から継続的に防災教育に取り組むことや防災訓練に関する学校アンケートでは地域や関係機関との協力の進め方が不明瞭という意見もあり、プロセスの周知が課題である。全ての学校でより実践的な防災教育や防災訓練が継続して行われるよう、優れた取組事例を周知するとともに、アドバイザー等も活用しながら、兵庫の防災教育の一層の充実を図る。

外部委員会意見

・本事業は、阪神・淡路大震災の教訓継承と実践的な防災教育を継続的に推進しており、特に防災ジュニアリーダー育成や防災教育実施率の向上など、量的成果は着実に現れている。また、前回レビューで指摘された内発的動機付けや地域特性への配慮についても一定の改善が図られている。
・一方で、評価指標は実施率や人数等の活動量が中心となっており、防災教育による行動変容や地域防災力向上への寄与を把握することが課題である。また、能登半島地震後に高まった防災意識が継続していないことや、地域・関係機関との連携訓練が目標を下回っていることから、平時から継続的に取り組む仕組みづくりが求められる。その際、神戸市教育委員会とも有機的に連携していくことで、神戸市域を含めた県内全域で例外なくこれらを構築していくことが期待される。
・今後は防災ジュニアリーダーの卒業後の活動状況も含め、中長期的な成果を把握する評価体系の構築も重要である。